

# 中国語論説体読解力養成授業システム (通称『レベル』) 添削ノート

三 瀧 正 道

前号で本システム開発の歴史とコンセプト、並びにその成果について詳説した。今号では、長年の実践の結果、実際に授業においてどういうポイントに絞って学生に説明をしているのかを講義ノートに沿って紹介し、学生の多い間違いも指摘しつつ、最後にそれらについてのまとめ、そこから、論説文講読担当の教員に必要な資質を考察してみたい。

ここでは、平成19年度2学期の第1回から第3回のレベル1から6までの問題を対象として取り上げる。ちなみに受講者は大学・社会人を含め、140名。その中から7名がレベル30を突破して而立会会員となり、その他、レベル20以上で終了したもの8名、レベル15以上で終了したものは14名を数えた。

なお、3回分の問題について、各レベルごとに3回分をまとめて提示することとする。それによって、各レベルの特徴がわかりやすくなる。煩瑣になるので、いちいち第何回の問題であるかは明示しない。

学生の間違いが顕著だったものについては下線を施した。

## [一][講義ノート] から

### レベル1

#### 1. 这到底是怎么回事呢？

“回”：ここでは“一回事”のこと。中国語では“一”はよく省略され、

量詞だけが残る。“怎么回事”は常用表現。

## 2. 人民解放军走过了 80 年的光辉历程。

“走过了”：過去の経験を示す“过”との違い。“了”が付いていることに着目。“历程”はそのまま「歷程」とせず、「道のり」と訳したほうが良い。音読みの訳と訓読みの訳を時に応じてうまく使い分けるのもコツ。

## 3. 新版语文教材仍然保留鲁迅的 6 篇作品。

“仍然保留”：“仍然保留着”とはなっていない。論説体では、アスペクト助詞は会話体ほど厳密ではなく、語調など修辭的要請でしばしば恣意的に省略される。特に 4 文字のリズムに関わる場合、顕著になる。

## 4. 东北三省地区生产总值年均增速为 12.6%。

“东北三省地区生产总值年均增速”：日訳する場合に 3 通りの訳が可能になる。①「東北 3 省地域の GDP の年平均増加速度は」②「東北 3 省地域は GDP の年平均増加速度が」③「東北 3 省地域の GDP は年平均増加速度が」。“的”が無いため、主述述語文として解釈することが可能になり、その場合、②③の 2 通りの解釈も可能になる。どれも間違いとは言えない。もちろん、上記の日本語文において「の」の省略も可能になる。

“生产总值”：これだけでは GNP か GDP か見分けがつかないので、GNP という訳が多かった。しかし、現在、GNP は指標としてあまり用いられなくなったので、“生产总值”だけで GDP を示す場合がほとんどである。

“**年均增速**”：“**年均**”は類語に“**人均**”がある。“**增速**”は「**増加速度**」の意味だが，“**经济增速**”と使われたとき、「**経済の成長速度**」とせず「**経済がスピードアップし**」とする誤訳が非常に多くなるので要注意。

“**为 12.6%**”：この“**为**”は話し言葉の“**是**”に当たる。ただし、数量述語文では省略可能なので、無くても構わない。時には数量でなくても数詞があれば省略してしまう場合も見かけられる。

#### 5. 目前，我国有各类残疾人 8296 万。

“**我国有～**”：「**わが国には～がいる**」が正しい訳。多いのが「**わが国は～がいる**」という訳。日本語自体がここいらの使い方が曖昧になっているせいでもあるが、あくまで存在文であることを意識して、「～には」と訳す癖をつけておかないと、複雑な長い文になったとき、厳密さを欠いて、結果として誤訳につながる例が時折見かけられる。

#### 6. 我国卫生工作面临前所未有的困难和挑战。

“**前所未有**”：決まり文句。

“**面临挑战**”：「**挑戦に直面する**」とは言わない。日本語の「**試練にあう**」を表現するとき、中国語では“**挑战**”を必ずといってよいほど使う。

#### 7. 我是个体体育爱好者，更是个乒乓球迷。

“**我是个～**”：前述の如く“**我是个～**”は“**我是一个～**”のこと。こ

の“一个”を「一人の」と訳すと、日本語では one of them の意味が出てしまう。中国語では、主語について何か具体的な叙述をしようとするときは、主語が単数とわかっている、[“一” プラス量詞]を加える。

“更是～”：「更に～である」と訳す人が多い。「とりわけ」と、更に特化するニュアンスがある。“更不是～”となれば、「ましてや～ではない」となる。

#### 8. 杨振宁说，中国这20年的变化，真是一个奇迹。

“中国这20年的变化，”：中国語の“，”に要注意。主部が長いと恣意的に“，”を打つ場合が多い。時にはそうして主部を際立たせる。

#### 9. 1996年，我国钢产量达到1亿吨。

“达到”：到達点を示す結果補語の形。

#### 10. 人民币升值的势头依然在持续。

“升值”：反義語は“贬值”。

“依然”：“仍然”も良く使われる。ただ，“仍然”は“仍”だけでも使えるが，“依然”は“依”だけでこの意味では使わない。ともに“旧”と結びついて“仍旧”“依旧”とは言える。

“在”：進行を示す“在”

11. 新疆是我国重要的能源资源战略基地。

“能源资源”：「エネルギーと資源」であって、「エネルギー資源」ではない。

“我国重要的”：「わが国の重要な」。なぜ“我国的重要的”としないのか。論説体は文の格調が優先する。例えば10文字以内に“的”が複数ある文章など減多にお目にかからない。最も重要なもの一つを残して後は全て省略してしまう。

12. 我们兑现了加入世贸组织时的承诺。

“加入世贸组织”：WTO 加盟。省略して“入世”とも言う。

“承诺”：「承諾」と訳さない。「公約」か「約束」。

---

レベル 2

1. 我国是以公有制为主体的国家。

“以～为…”：この“以”は「以～」と後ろの内容を受ける用法。“以～为…”で「～を…とする」。

2. 许多腐败问题是由作风问题引起的。

“是～的”：ある主観的な判断を示す言い方。

“由～引起…”：責任の所在を示す“由”。

“作风”：「仕事に対する姿勢」「勤務態度」などと訳す。

### 3. 中国政府将向遭受洪灾的朝鲜提供人道主义援助。

“将”：これから行われる動作を導く。辞書の訳語に引っ張られて「まもなく」と訳す学生が多いが、日本語の「まもなく」ほど目先のことでなくてもよく使うので、注意が必要。また、こういった副詞類は、中国語では介詞の前に置かれるのが普通であることも注意しておこう。

“遭受洪灾的朝鲜”：“動詞＋目的語”が“的”を伴って名詞の修飾語になる形はいくらでもあるが、その際、動詞をもっと後ろまでかけてしまって解釈することがよくある。この場合だと「洪水の北朝鮮に“遭受”するのでは意味が通じないが、紛らわしい場合もよくある。

### 4. 对石家庄来说，滹沱河确是不可离弃的“母亲河”。

“对～来说”：「～にとっては」。「～に対して言う」という訳は誤解を招きやすい。“对～而言”とも言う。

### 5. 税收在推动环保工作中，大有可为。

“环保”：“环境保护”の略称。

“大有可为”：4字成語。4字成語はそれだけで述語として使える。この文は“大有”が副詞プラス動詞なので、成語述語文といわなくても、オーソドックスに解釈できるが、“美国领导的多国联盟已名存实亡。”という文では、“已”の位置が“名”の前にあるから、“名存实亡”に述語性を与えなければ解釈できない。

6. 滨海新区距天津市区，近一小时车程。

“滨海新区”：上海浦東開發区の4倍もある天津の開發区。環渤海湾經濟圏の新しい目玉。

“距～”：「～から」。距離を測る時に用いる。この文は既述の数量述語文なので、動詞がなくてよい。

“市区”：「市街地区」。市の中にも農村があり、これと区別して言う。

7. 谁不希望自己的子女接受最好的教育呢？

“谁不希望”：「誰が望まないだろうか」→「みんな望む」。反語表現。

8. 中国的乡村小桥大都立身于穷乡僻壤的小河沟渠之上。

“乡村”：“乡镇”“城乡”“城镇”とどう違う？

いずれもよく目にする語彙だが、何処が違うのかははっきり理解しておこう。

“乡村” → 「農村」

“乡镇” → 農村と地方の町。あわせて農村部。

“城乡” → 都市と農村。“城”は昔、大城壁で囲まれていたような大都会。

“城镇” → “鎮”は地方の町。あわせて都市部。

したがって“鎮”は町以上の部分を都市部というときにも、町を含めた農村地帯を言う場合にも組み込まれるので、少々わかりにくい。

“立身于～”：「～に身を置く」。“于”は論説文で動詞の後ろに置かれ、動作に関わる実には様々な成分を導く。この場合は動作に関する

る場所を導くが、それぞれ、決まり文句として覚えよう。

#### 9. 对华采取单边惩罚行动可能导致贸易战。

“对华”：「中国に対して」。中国のことを“华”で示すことはよくある。

“华夏”は中国の古称だが、中国の伝統や文化を意識した愛国的なニュアンスでよく使われる。

“单边”：「一方的な」。話し言葉の“片面”に相当する。なお、“双边”は「二国間」，“多边”は「多国間」の意味でよく使われる。

“导致”：“导致”と“造成”

どちらもよくない結果を引き起こした場合に多用される。

例：中方反对任何导致东北亚形势紧张的行动。

例：重庆地处四川盆地，容易造成水土流失的坡耕地很多。

両者の違いはそれほど明確ではないが、地震とか台風とか交通事故で、どれだけの家屋が破壊されたか、とか何人死亡したかなどという具体的な数字を列挙する場合には“造成”がよく使われる。

#### 10. 如今和平年代，战争离普通人的生活很遥远。

“如今”：「今では」「今時」。“现在”と違うのは、過去と比較するニュアンスが加わる。

“和平”：中国語の“和平”は日本語の「平和」。日本語の「和平」は、「カンボジア和平」「中東和平」のように停戦の意味で、中国語では“停火”。

“离～”：前出の“距～”とおなじ。より話し言葉風。



11. 山西自古缺水，让农民洗澡，堪称卫生观念的一场革命。

“自古”：「古くから」。“自～”で「～から」。論説体常用。よく“自古以来”「古くから」という4文字句が使われる。

“让～”：使役構文。

“堪称～”：「～というにふさわしい」。

12. 小企业融资的政策和法律环境已经得以改善。

“小企业融资”：「小企業融資」。「小企業への融資」であって、「小企業が融資する」のではない。中国語は、法律名・政策名・組織名・新聞のタイトルなど一定の呼称の場合は、しばしば“動詞プラス目的語”ではなく、“目的語プラス動詞”になる。例えば「環境を保護する」なら“保护环境”だが、「環境保護」となれば“环境保护”，更には“环保”となる。

“得以改善”：「改善された」。“得以”と“得到”は論説体でよく本来動詞である語と組んで用いられ、多くの場合、4文字のリズムを作る。“得到解決”「解決された」のように、意味上から受身表現としての働きをすることも多い。

---

レベル3

1. 5月底，太湖蓝藻暴发，无锡市自来水出现臭味，导致一场影响全市的供水危机。

“蓝藻”：アオコのこと。

“无锡市自来水出现臭味”：出現文。「水道水に悪臭が出た」。

2. 2000年悉尼第十一届残奥会上，来自62个国家和地区的500多名运动员参加了游泳比赛。

“残奥会”：「パラリンピック」。“特奥会”は知的発達障害者の競技会である「スペシャルオリンピック」。

“来自～”：「～から来た」。論説体常用表現。

3. “辽宁老工业基地调整改造和振兴是一项长期而艰巨的历史性战略任务，必须统筹规划、分步实施。”

“一项”：この“一项”は主語に対する説明口調を示すが、大事なことは、名詞にかかるあらゆる修飾語の先頭に置かれることで、このことを理解しておくことが、長文の解読には役に立つ。

“长期而艰巨的”：「長期にして困難な」。この“而”は“长期”と“艰巨”を結んで、並列させる働きをする。

“历史性”：「歴史的な」。日本語の「～的」は中国語では“具有～性(的)”“具～性(的)”“带～性(的)”“有～性(的)”などと言い、動詞を省略して“～性(的)”とも言う。なお、一部の語彙は一切他の助けを借りずにそのまま他の動詞や名詞にかかって、日本語の「～的」の意味となる。“根本”“长期”“科学”などがその例。

“规划”：“规划”“计划”“设计”“规定”“证明”などは動詞としても良く使われる。ところが、日本人は、どういうわけか、最初から名詞だと思い込んで間違えることがよくある。「事实证明，」は「事实证明」ではなく、「事实は～ということを証明している」，「宪法规定」は「宪法规定」ではなく、「宪法は～と規定している」。なお，“规划”と“计划”の違いも要注意。前者

は努力目標を掲げた遠大なプランに多く使われ、後者は拘束性の強い目標を掲げた具体的プランに良く使われる。

4. 中辰番茄制品有限公司目前的年生产能力达到 10 万吨，产品占国际小罐装番茄制品交易量的 50% 以上。

“产品”：「製品」。

5. 近几年来，合肥市每年的房地产开发总量都在六七百万平方米，但是鲜见新开发的楼盘配套建设中小学校。

“房地产”：「不動産」。

“六七百万”：「6 千 7 百万」ではない。「6, 7 百万」。

“楼盘”：「分譲マンション」。

“配套建设”：「セットで建設する」。

“中小学校”：中国では高校は“高级中学”であり、しかも日本の中学と高校は“中学”として併設されている場合が多い。したがって、場合に応じて訳を考えなければいけない。義務教育は 9 年生なので、その範囲での文章であれば“中学”は中学だけを指す。なお、中国では小学校から大学まで全て“学生”というが、日本では高校までは生徒で、学生といえば大学生を指す。

6. 今年初，物价上涨明显，据测算，武汉大学生均每月伙食费成本上涨了 46.7 元。

“上涨”：反義語は“下跌”。

“均每月”：「毎月平均」。

“上涨了46.7元”：「46.7元値上がりした」で、値上がり幅を言う。“上涨到46.7元” だったら「46.7元に値上がりした」となる。

7. 退耕还林工程是我国政策性最强，投资最大，涉及面最广，群众参与程度最高的一项生态建设工程。

“退耕还林工程”：耕地を林に戻すプロジェクト。

“涉及面最广”：「もっとも多方面に関わる」。

“群众”：「群衆」と訳さない。日本語の「群衆」は烏合の衆をさすが、中国語の“群众”は「大衆」「民衆」といった意味で使われる。

“群众参与程度最高的”：ここも本来なら“群众参与的程度最高的”か“群众的参与程度最高的”となるところを、繰り返しを嫌って、前の“的”が省略されている。

8. 东京时间12日14时，日本首相安倍晋三在首相官邸举行紧急记者会时宣布辞职。

“东京时间”：「日本時間」と訳す。

9. 大力推广太阳能、沼气等绿色能源，切实保护高原生态环境，成为西藏近年来的一项重要工作。

“大力推广太阳能、沼气等绿色能源，”：“、”と“，”の違いをしつ

かり把握する。

“绿色能源”：「環境に易しいエネルギー」「クリーンエネルギー」。

“成为～”：「～になる」。“为”はいろいろな動詞の後ろに用いられ、動作の結果、何かに変わる、成ることを示す。一つの複合動詞のようにになっているものもあるが、例えば[“变为”～](～に変わる)が[“变”～“为”～](～を～に変える)となるように、兼語文の形式とは極めて深い関係がある。“成为”“变为”のほかに、“认为”“作为”などが良く使われる。

---

#### レベル 4

1. 《中国读本》汉文版出版以来，不但深受中国汉族读者的欢迎，而且也备受中国各少数民族读者的青睐。

“不但～，而且…”：「～だけでなく，…だ」。

“受～的欢迎”：「～に人気がある」。

“受～的青睐”：「～に好評だ」

2. 制度好，可以使有腐败之心的人无法腐败；制度不好，可能使好干部也犯不廉洁的错误。

“使”：多く結果を伴う使役として使われるので、「～させる」という訳し方以外に、「～した結果，…になる」という訳し方を覚えておくと便利。この場合なら、「制度がよければ，その結果として心の腐ったひとも腐敗しようがなくなる」と訳せる。

“无法腐败”：“无法～”で「～しようがない」。“无法腐败”は“没办

法腐败」と同じ。中国語は、動詞が“有”“没有”“无”など「ある」「無い」の場合、まず目的語本体が先に来て、動詞性修飾語は後ろに廻る。例：“有事要做”「やらねばならないことがある」

“犯错误”：「過ちを犯す」。

3. 8月30日，外交部长杨洁篪应约与日本外相町村信孝通电话，双方就共同推动两国关系向前发展交换了看法。

“外交部长杨洁篪”：中国語は一般に肩書が先に来るが、日本語は名前が先に来るので、訳すときに気をつける。

“与”：この“与”は介詞用法だが、“与”には連詞としての用法がある。日本語の「～と」には、「AとBは」一連詞（接続詞）の場合と「AはBと」一介詞（前置詞）の場合があり、これにあたる中国語は何種類かあって厄介なので、簡単にまとめておこう。

○：普通に使う △：ごくたまに使う ×：使わない

|   | 話し言葉 | 書き言葉 | 連詞（接続詞） | 介詞（前置詞） |
|---|------|------|---------|---------|
| 跟 | ○    | ×    | △       | ○       |
| 和 | ○    | ○    | ○       | ○       |
| 同 | ×    | ○    | △       | ○       |
| 与 | ×    | ○    | ○       | ○       |
| 及 | ×    | ○    | ○       | ×       |

見方：“跟”と“同”は話し言葉と書き言葉の違いだけで、補完関係にある。

“和”と“与”も同様、と言いたいのだが、“和”は話し言葉・書き言葉どちらにも良く使われる。

“就共同推动两国关系向前发展”：この“就”は「～について」という介詞。後ろの“交换了看法”にかかる。よく“就～问题”「～の問題について」と使われる。

4. 如此远离群众，怎么能了解群众的真实情况，又怎么能“民有所呼，我有所应”呢？

“如此”：話し言葉の“像这样”にあたる。

“怎么能～”：反語。「どうして～出来ようか」。

“了解”：「理解する」。中国語の“理解”は心情的、情緒的に理解する意味なので、使い方に気をつける。

“民有所呼”：この“所”は動詞の前において名詞句を作る働きをし、この場合は4字句の形成にも役立っている。

5. 印尼女佣到了马来西亚后先要把护照交给中介机构或者雇主，还没开始工作就已经失去了人身自由。

“把护照交给～”：“把”構文(処置文)。“交给”の“给”は授与動詞(人に物を渡したり、あげたりする動作を示す動詞)の後ろに置かれ、その対象を導く。

例：“递给～”(～に渡す)・“寄给”(～に郵送する)・“送给～”(～にプレゼントする)

また、そういった意味合いから、ある動作をしてあげたりするときにも使う。

例：“念给～”(読んで聞かせる)・“讲给～”(話して聞かせる)

“还没开始工作就～”：この“就”は予想より早いことを示す。「には

もう～だ」。

6. 今年以来，由于粮、油等原材料价格上涨，月饼涨点价亦在情理之中，但涨幅达 50% 是否也合情合理？

“今年以来”：日本語は今現在を含む今日・今週・今月・今年に「以来」はつけないが，中国語は OK。したがって，日訳するときは「今年になってから」と訳す。

“由于～”：原因や理由を示す。

“涨点价”：“涨一点价”のこと。“動詞＋動作量＋目的語”の語順に注意。

“～亦”：「～もまた」。書き言葉。

“是否”：“是不是”の書き言葉。類似のものに“可否”“能否”がある。

7. 应日本国政府邀请，全国政协主席贾庆林 12 日下午乘专机抵达东京，开始对日本进行正式友好访问。

“应～邀请”：「～の招待に応じて」。外交用語。

“政协”：「政治協商會議」。

“对～进行访问。”：「～を訪問する」。“对～进行…”は論説体では頻繁にお目にかかる。「“进行”があったらその前に“对”をさがせ」，これが，長い文では意外に解説の助けとなる。



8. 大熊猫在世界范围内几乎是最受关注的物种，并因而成为世界自然保护的象征。

“几乎是～”：「ほぼ～のようだ」。

“并”：“并且”と同じ。

“因而”：「それゆえに」。

9. 中国女足在辉煌时期，从不担心世界杯赛小组出线有什么问题，如今竟然成了期盼中的目标。

“从”：“从来”に同じ。ただし、否定文にしか用いることが出来ないことに要注意。

“出线”：「(予選を)突破する」。

“有什么问题”：「何の問題があるか」ではなく、「何か問題があるか」。

“竟然”：予想に反した意外な気持ちを示すが、予想に反した意外な気持ちを示す語には、このほか、“倒”“却”などがある。どう使い分けるのだろうか。“倒”は「易しいと思ったら難しかった」とか「温かいと思ったら寒かった」とか、予想と逆の結果がでた場合、もしくはそれに準ずるほどの強い意外性を伝えたい場合に良く用いる。“却”は推測をはずされた場合のちょっと意外な気持ちを示すときに使う。つまり、“えっ?”というようなフィーリング。これに対し“竟(然)”は予想をはるかに上回る程度に達したときに良く使う。

---

レベル 5

1. 据日本媒体报道，日本歌手大黑摩季、冈本真夜等 29 日在东京举行记者会并宣布，将于 10 月召开音乐会支持明年于北京召开的残奥会。

“于 10 月”：「10 月に」。“于”は時を導く場合にも使われる。〔“于” + 時を示す語〕は動詞の前にも後ろにも置かれる。

2. 2006 年，作为欧元区最大经济体，德国经济获得本世纪最强劲增长，达到了 2.7%，带动整个欧元区经济增长率也高达 2.7%。

“作为”：“作为～”は「～とする」と動詞でも使われるが，多くの場合，「～として」と介詞に使われる。

“最强劲增长”：「もっとも力強い成長」。話し言葉では，形容詞に程度副詞が加わる場合，“的”が必要とされるが，論説体ではどちらでも構わない。

“整个～”：原則として「～全体」と訳す癖をつけよう。“整个～”はある一つのものの全体を言う場合に使うので，誤解を招くことを避ける。例えば“整个国家”を「全国家」と訳すと，「複数の国家全て」という意味だと勘違いされる。「国家全体」とすれば，その危険はなくなる。

“经济增长”：「経済の増長」とは言わない。「経済成長」。“増長”は“人口増長”の場合は「人口の増大」「人口増加」と訳す。

“高达～”：「～にも達する」。

3. 我国现有营运车辆 810 万辆，如果每辆营运车辆每天节省 1 升油，全国一年就可以节约燃油 235 万吨左右，全年可节约燃油成本 138 亿元左右。

“如果每辆营运车辆每天节省 1 升油，全国一年就可以～”：“如果～就…”の構文。

“可节约”：“可”は“可以”に同じ。

4. 8 月 30 日下午，才开通两个月的内乡至东川的班车又停运了，班车营运证和驾驶员资格证被西峡县运管所没收，并且开出 3000 元的罚款。

“才”：「わずか，たった」。ごく少ない気持ちを示す。

“内乡至东川”：話し言葉の“从～到…”を論説体では“～至…”という。

“被西峡县运管所没收”：“被～所…”で論説体の受身表現。“为～所…”も良く使う。

5. 今年 6 月新就任富士通中国区总代表的五十嵐隆表示，“2007 富士通中国论坛”只是一个开始，富士通将在中国市场翻开全新的一页。

“五十嵐隆表示”：“表示”と“表明”に注目しよう。日本語では，人間は「表明」し，看板などが「表示」する。しかし，中国語では圧倒的に，人間は“表示”し，グラフや調査結果などが“表明”する。

例：美国总统布什近日表示，～

例：日本调查表明，～

“论坛”：「フォーラム」。

6. 煤炭博览会是商务部重点支持的我国中部地区的投资贸易活动，由山西省人民政府和商务部共同主办，自2007年起每年一届，太原为固定举办地。

“重点支持”：“重点”は単独で動詞にかかることが出来る。「重点的に」。

“自～起”：「～から」。“起”だけでも構わない。“今天起”「今日から」。

“为”：話し言葉の“是”に同じ。法律の条文などでは“系”も使われる。

---

## レベル6

1. 他希望能在北京早日建成泰国文化中心，也希望中泰两国企业能加强在基础设施特别是火车、地铁等大型工程项目方面的合作。

“建成泰国文化中心”：“成”は様々な動詞と組み合わせさせて、動作の結果・完成・実現することを示す。

“加强”：“加”は様々な形容詞と結びついて、複合動詞を構成する。  
例：“加快”“加大”“加深”“加多”

“基础设施”：「インフラ」。

“～特别是…”：「～特に…は」。書き言葉専門として“～尤其是…”もある。

2. 自从今年4月英镑兑美元比价突破1:2大关之后,英镑“好像是越走越精神”,根据8月4日国际市场的汇价英镑兑美元达到了1:2.04的高峰。

“自从~之后”:“自从”も“自”も同じ。

“英镑兑美元比价”:「ポンドの対ドルレート」。

“突破~大关”:「~の大关を突破する」。

“越走越精神”:「益々元気になる」。“越~越…”の構文。

3. 美国白宫一名高级官员9日说,尽管“基地”组织头目本·拉登在“9·11”事件6周年之际再次发布录像,但其中没有明显迹象表明“基地”将发动一场新的袭击。

“白宫”:「ホワイトハウス」。

“尽管~,但…”:「~だけれども…だ」。

“基地”/“本·拉登”:「アルカイダ」/「ビン・ラディン」

““基地”组织”:“组织”の落とし穴。国連などの組織はよく“世界卫生组织”「WHO」と訳すが,“组织”は動詞としてもよく使い,組織することを“组织起来”などという。主語の後ろに“组织”があるとき,名詞か動詞か,よく見極めよう。

“之际”:「~の時に」という言い回しは,口語では“~的时候”と言うが,時事文など論説体では“当~时”と言い,“当”を省略して“~时”とも言う。これに類した言い方がこの“~之际”

で、これは日本語の「～の頃」にあたる「～の時」。使い方に気をつけよう。

“没有明显迹象表明～”：既述の、動詞が「ある」「無い」のときの特殊構文。「～ということを示す兆しは無い」。

“新的袭击”：一音節の形容詞は、話し言葉でも直接名詞にかかるのが普通。したがって、論説体でわざわざ“的”を入れれば、“新”が非常に強調される。

4. 《中国文化报》8月21日发表署名文章，报道北京市九个区县语文课本被几位教科书编委将《阿Q正传》及《药》撤去，换上了金庸的武侠篇。

“将《阿Q正传》及《药》撤去”：この“将”は話し言葉の“把”に同じ。処置文を構成。

“换上了”：この“上”は動詞と結びついて、動作の目的が達せられたことを示す。

5. 如今，吕梁市的空气质量明显好转，截至7月26日，今年市区二级以上天数达到164天，同比增长37天，全省排名由去年的倒数第一上升到正数第五。

“质量”：「質」。「質量」ではない。

“截至～”：「～まで」。

“同比”：「前年同期と比較して」。

“排名”：「ランキング」。

“由～上升到…”：「～から…に上昇した」。「由～V 到…」は常用の言い回し。

“倒数” / “正数”：「逆から数えて」 / 「上から数えて」

6. 的确，一个人进入了公务员队伍，特别是担任了一定领导职务以后，一个明显的变化，就是通过各种渠道想和你接近的人突然多了起来。

“通过各种渠道”：「様々なルートを通して」。“通过”は議会などで法案が「可決される」という場合にも使うので，気をつける必要がある。

“想”：「～したい」と助動詞として使う場合でも，様々な副詞同様，介詞構造の前に置かれるので，気をつける。

“多了起来”：“起来”は形容詞と結びついて，そうなり始めたことを示す。

## [二] 注の分析

以上の注は全部で144条を数える。学生には訳も言うが，全てを言う時間は無いので，テスト範囲となる特定のレベルのみ全訳を言い，残りは要点を講ずる。その際しゃべる内容はほぼこの注と重なりといつてよい。

これらの注をその内容から，数種類に分類した。項目によっては複数項にかかるものもあるが，主要な要素にしたがって，ダブルカウントせずに分類した。以下，多い順に数字を挙げる。

1. 話し言葉・書き言葉に関わらず、基礎文法として必要な知識 -- 39項目(27.1%)  
 様々な複文，存在出現文や数量述語文・主述述語文，さらに反語表現といった類から，文における数量詞や助動詞・副詞の位置や働きなどを含む。
2. 論説体独自の文法・語彙などを提示 ----- 38 項目 (26.4%)  
 書き言葉特有の文型，例えば被動法や“于”の多様な用法，また，アスペクト助詞や構造助詞の用法の違い，話し言葉・書き言葉両用あるいは書き言葉専用の連詞や介詞・複合語，語調を整えるための4字句を構成する各種小道具類など。
3. 時事用語の解説 ----- 31 項目 (21.5%)  
 “生产总值”“升值”といった経済用語，“退耕还林”“绿色能源”といった資源エネルギー関係，“政协”“乡村”といった政治行政関係，その他，庶民生活に関わる語，最新時事用語などがこれに加わる。
4. 日訳の仕方 ----- 24 項目 (16.7%)  
 “挑战”“更是”“承诺”“群众”“今年以来”など，日訳するとき特に注意すべき語について説明。
5. 類義語のニュアンス ----- 12 項目 (8.3%)  
 “表明”と“表示” / “了解”と“理解” / “导致”と“造成” / “竟”と“到”と“却”などの異同。

これらの項目は，筆者が20年以上にわたり，学生の日本語訳を添削した経験から，学生がどんな説明を必要とするかを肌で感じ，そのニーズに合わせて練り上げてきたもので，中国語専攻学科で1年間（週6コマを基準とする）学んだ基礎に照準を合わせている。

中国語専攻学科で1年間（週6コマを基準とする）学ぶと，中国語文



法の基礎は一通り学習しているが、もちろん充分とはいえない。まして、それは話し言葉中心の文法であり、論説体を学ぶに当たって、両者の違いをしっかりと認識させるには、基礎となる話し言葉の文法知識があやふやでは、積みあがるものも積みあがらない。

したがって、一般的な基礎文法の知識を説明した項目がトップの26.4%を占めたこの統計数字からもわかるように、話し言葉・書き言葉に関わらず、基礎文法として必要な知識を再確認する作業はどうしても不可欠であり、この作業なくして、論説体の正しい習得は至難のわざとなる。仮に第2外国語の中級・上級であれば、なおさらであろう。

然るに、多くの大学は、こういった論説文を講読する教員に、内容重視で、社会で活躍した報道関係者あるいは社会科学関係の研究者を充てる場合が少なくない。その場合、経済問題や環境問題など、専門知識については学生に相当の満足を与えることが出来るが、およそ読解力についてはほとんど進歩が見られない。

次に、論説体独自の文法・語彙などを提示した項目が26.4%を占めて、ほぼ基礎文法と拮抗している。論説体の学習であるから当然といえば当然だが、ここで求められる教師の資質とは何であろうか。人民日報の文章をサンプルにして論じると、建国当初から今日に至るまで60年の間にかなりの変化が見られる。政治的変動という要素は別にしても語彙上の変化が顕著にあり、文法的にも若干の変化が見られる。

論説体は、文語体と重なる部分・現代話し言葉と重なる部分が時の流れに沿って微妙に変化している。最近では南方の影響も垣間見られる。そういった中で、論説文を講読する教員は、相手がまだ学習歴が浅い者であればあるほど、それぞれ個々の語彙や文法について、文語体と重なる部分・現代話し言葉と重なる部分、また、文語体と重ならない部分・現代話し言葉と重ならない部分を明示し、TPOによる使い分けを説明でき、時代の変化に基づく変遷についても敏感でなければいけない。重なる部分でも、場合によっては、どちらに傾いているか、の比重を知らしめる必要もある。更に論説体の修辭的要請について確固たる知識がないと、

説明に十分な納得は得られない。

この点からも、社会で活躍した報道関係者、あるいは社会科学関係の研究者が担当する場合、読解力の要請を授業の目標に含む場合には、それが大きなハンディキャップとなる。もちろん、現代中国理解に絞れば、この問題は俎上に上らない。

時事用語の解説も31項目(21.5%)と上位2類に迫っている。新聞を材料にしているのだから、これまた当たり前といえは当たりのことである。問題は、1や2とは逆に、文法などに詳しい語学畑の教員がこの授業を担当したとき、普段のニュース程度の通り一遍の知識では学生の質問に答えきれない場合が多いことである。

論説体の講読をする場合、辞書に載っていない最近の語彙に出くわすことが多い。オバマやマケインは固有名詞だからもちろんないし、ノロウイルスやメラミンもない。また、経済・IT関連など、専門的な辞書が必要とする場合も多い。いきおい、『現代用語の基礎知識』などが必須になってくる。

したがって、彼らは論説体の授業を担当を敬遠し、社会で活躍した報道関係者、あるいは社会科学関係の研究者にその席を譲るか、あるいは、そういった注釈の充分にあるテキストを採用して講義を行う。その場合、なかなか最新のニュースに追いつけない。筆者が朝日出版社から「時事中国語の教科書」を毎年、シリーズで出版した意図はこの部分を補うためのものであったが、13年続いているということは、確実にそのニーズがあることを証明していると言えよう。

4と5については、翻訳という分野が絡んでくる。基礎文法を正しく理解し、テーマに関する内容に造詣があっても、翻訳という作業はそれなりの専門技術になる。一流のプロを養成するための翻訳学となれば、中国なら厳復などから話しを始める必要もあろうし、専門的な翻訳理論も登場する。しかし、大学の論説体の授業ではまだ其処までは求めるべくも無い。だからと言って翻訳の厳密性を求める姿勢が欠けては、何時ま

でもいい加減な誤訳がまかり通ることになる。その意味で、中国語の類義語の違いを明確にしたり、日本語と同一表現であっても、其処に生じる微妙なニュアンスの違いを講ずることは、教える側が当然担うべき不可欠の責任であろう。

フランチャイズを意味する“特許”をそのまま「特許」と訳すのは明らかな誤訳としても、“协议”を「協議」と訳すのも許容範囲を超えているし、“近日”を「近日」と訳せば、多くの場合、勘違いの元になる。自分の就職が“就職”では、「偉そうに」とお目玉を食らうだろう。

この面では、一般の日本人教師はさほど問題は無い。問題は中国人教師が担当する場合で、この部分にはっきりと意識がいけないと学生を混乱に陥れる。そういった例は珍しくない。

このことは、どう日本語に訳すか、という訳のテクニックについてもいえる。その点を抜きにすると、画竜点睛を欠いてしまうし、学生の実力向上に水を差す。ただ、専門分野の知識にも関連する訳し方、となると、日本人教員も安閑とは出来ないし、筆者もまた決して万全ではなく、日々これ勉強、ということになる。

以上の考察から言えることは、論説体の授業というのはまさに学際的であり、語学としての専門と社会科学の専門の谷間に位置する。卒業後、社会に出て行く学生にとっては、社会的知識が必要なことは言うまでもないが、インターネットがこれだけ普及した現代で、ネット上で生きた情報が取れるか否かでは、情報取得量に天地ほどの開きがあり、インターネットが無かった時代の読解力の必要性と比較すれば、そのニーズは誰の目にも明らかである。

論説体の授業の目的をどう位置づけるか、必要に応じ担当教員をどう養成するか、まさに、目の前に突きつけられた課題である、と言えよう。